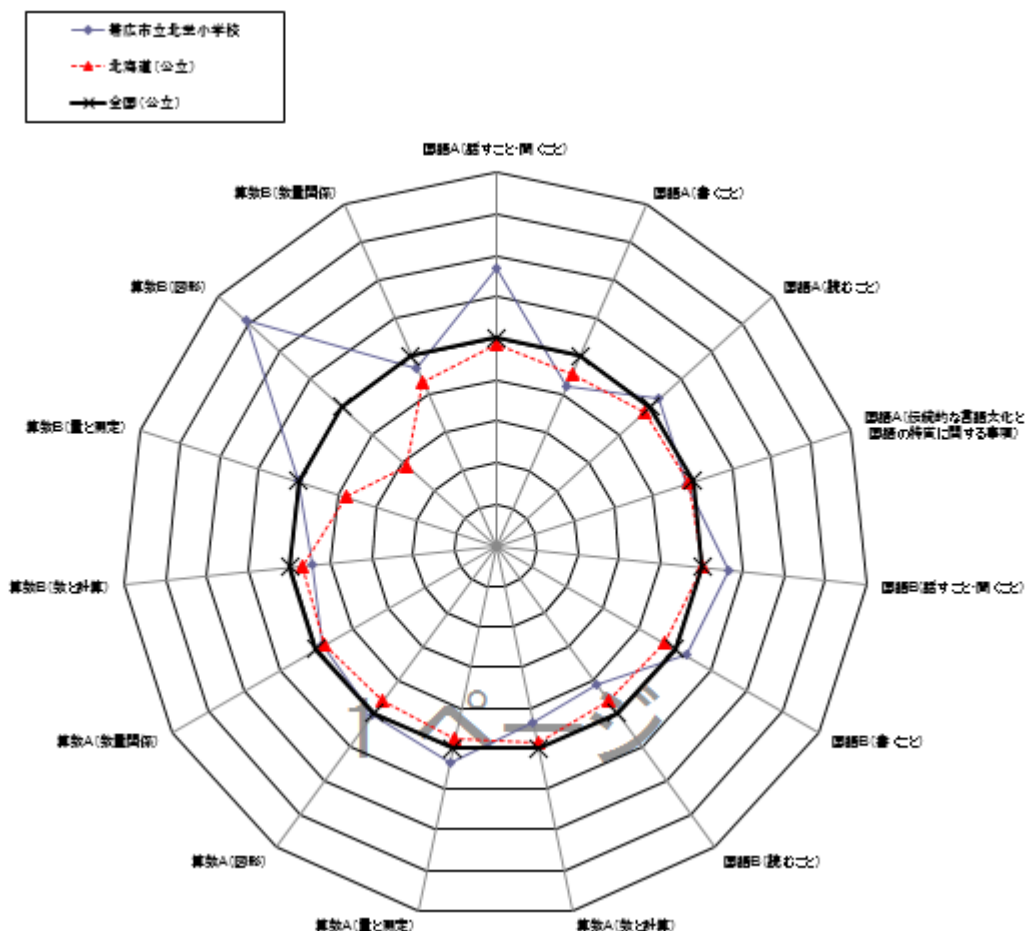


平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて

今年度 4 月、6 年生を対象に実施された『全国学力・学習状況調査』の結果をお知らせします。毎年、この調査結果を分析し、授業の改善に努めています。

保護者の皆様にも情報を共有し、共通理解を図るとともに、ご家庭との連携を強めていければと考えています。



結果から見た本校児童の様子

国語 A（主に知識を問う問題）

○「読むこと」の項目に関しては、全道・全国の平均を上回っており、全体としては基礎的・基本的な学習事項の定着がみられました。

○昨年に比べ正答率も上がっており、学習の取り組みに対しての一定の成果がみられました。

○どの領域においても、全道平均を上回るか同程度の正答率で、国語全般に力をつけています。

▲「漢字を書く」「手紙に必要な日付などの位置」の正答率が低めで、今後の課題になっています。

国語 B（主に活用を問う問題）

○全道や全国の平均を超え、A問題よりも良い結果であった。特に「話すこと、聞くこと」の領域では全国を超える正答率で、日常の授業の中で意識して取り組んできた成果が表れました。

○昨年度の課題であった「書くこと」「書く能力」「記述式」の問題の正答率が上がっており「書くこと」の学習への取り組みの成果が表れています。

▲物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりことが苦手なので、読書指導が必要です。

算数 A（主に知識を問う問題）

- おおむね全道平均に近づいており、基礎的・基本的な学習が定着してきています。
- 基礎的な四則計算や重さや長さの単位に関する問題の、正答率が高かったです。
- ▲整数÷整数を分数にする問題の正答率が低く、発展的な四則計算の力に課題が残りました。

算数 B（主に活用を問う問題）

- B問題を全国平均の正答率にするという昨年からの目標におおいに近づき、全道平均を超えることができ、国語同様にB問題での健闘が光りました。
- 問題に示された割合を理解して判断する「量と測定」や「図形問題」の正答率が高く、国語の力がついた事で、問題の意図を理解する力が向上しています。
- ▲「数量関係」の問題で、いくつかの式から解答を導き出す問題の正答率が低く、課題が見られました。

分析結果から

- ・本校の児童は国語 A、算数 A、国語 B、算数 B、ともにおおむね全道平均を上回り、基本的な学習の定着は進んできています。
- ・国語 B、算数 B など活用を問う問題や記述式の問題については、昨年度は課題が見られましたが今年度は大幅に改善されてきています。
- ・また、全体的には無回答率が低いことから学習への意欲や、問題に対する取り組む姿勢が向上しています。

改善のために

- ◎自分自身の考えを持ち、広げて「書く力」を育成するために、「読書活動」「スピーチ活動」「日記」などの活動を工夫して行います。
- ◎「漢字を書く力」の育成、「計算の能力の底上げ」のため、「朝学習」「チャレンジテストの活用」「ミニテスト」「家庭学習（宿題）の推進」など、繰り返し学習ができるように取り組んでいきます。
- ◎学習に対する理解の個人差を埋めるため、学習支援の先生と協力し、個に応じた指導の工夫と改善を図ります。
- ◎「考える力」「伝え合いの力」の育成のため、現在の校内研究の内容を改善しながら、本校の実態に合った研究をしていきます。
- ◎放課後スキルアップタイムや長期休業中の補充学習の実施を継続していきます。